

# 1 T<sub>E</sub>X と文書作成

## 1.1 はじめに

[T<sub>E</sub>X](#)(テフもしくはテック) は高度な組版作業を自動化します。T<sub>E</sub>X を利用すればワープロよりも効率的に文書を作成することができます。

## 1.2 T<sub>E</sub>X の利点

ワープロと違い T<sub>E</sub>X による文書作成ではフォントのサイズやスペースのとり方などを気にする必要がありません。文書の見た目についてはすべて T<sub>E</sub>X が面倒を見てくれます。<sup>\*1</sup>精緻に組版されるので印刷の仕上がりはとてもきれいです。見出しや箇条書きの連番を割り振ってくれたり、目次や索引を生成してくれたりもします。書誌情報を管理する機能もあります。

## 1.3 T<sub>E</sub>X の導入

T<sub>E</sub>X を使用するために必要なものは以下の 3 つです。<sup>\*2</sup>

T <sub>E</sub> X ディストリビューション	<a href="#">T<sub>E</sub>X Live</a>
T <sub>E</sub> X エディタ	<a href="#">LyX</a>
PDF ビューア	<a href="#">Sumatra PDF</a>

T<sub>E</sub>X Live には組版に必要なプログラムがすべて含まれています。LyX は T<sub>E</sub>X を使いやすくなるためのエディタです。ワープロのようなインターフェイスで文書を作成・編集することができます。Sumatra PDF は組版処理された PDF 形式の文書を確認するために使用します。これらのアプリケーションのインストールや使い方の詳細については [T<sub>E</sub>X Wiki](#) を参照してください。

---

<sup>\*1</sup> ユーザが文書の見た目についてやるべきことは、あらかじめ用意された文書のクラスおよびスタイルを指定することだけです。文書の見た目を独自に調整することもできますが、その必要はほとんどありません。

<sup>\*2</sup> T<sub>E</sub>X Live には [T<sub>E</sub>Xworks](#) という T<sub>E</sub>X エディタが含まれていますが T<sub>E</sub>X のコマンドを直接記述する必要があるので初心者には不向きです。T<sub>E</sub>Xworks は PDF ビューアとして使用することもできます。